

<p>「江戸しぐさ 一期一会」</p>	<p>2011年2月25日</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>最近、近所の市立図書館が新装オープンした。平日に顔を出してみたら、リタイアしたシニアの方々がたくさん来ている。書棚を巡るうち、何気なく目についた一冊が「江戸の繁盛しぐさ」(越川禮子著、日経新聞社)。</p>	<p>1992年に発刊された古い書籍だが、以降の江戸ブームに火を付けた元祖本らしく、今でも非常に新鮮だ。</p>	<p>明治維新から昭和の大戦にいたる過程で全面否定され、伝承が途切れてしまった江戸文化のイキ(意気)つまり「江戸しぐさ」を丹念に調べ、分かりやすく解説している。</p>	<p>徳川270年かけて熟成し、完成した江戸しぐさは、深い味わいに満ちている。ちなみに、太平洋戦争中、アメリカは江戸商人の巧みな販売戦略、人材抜擢主義など江戸しぐさ</p>
---------------------	-------------------	-------------	--	--	--	--



の合理性を徹底研究し、対日戦略を執行したという。

基本精神は、「相互扶助 Ⅱ 共生」。

例えば、さりげなく他人に空間を譲る「こぶし腰浮かせ」「傘かしげ」などは、殺伐とした現代にこそ必要なマナーだ。

真髓が“一期一会”。

「二度と会えない覚悟で人に接しなさい」という意味の奥に「どんな人でも仏様だから縁する人すべてに最高の敬意を払いなさい」という思想が裏打ちされている。そのためか江戸は犯罪がきわめて少なく、当時既に世界一治安のよい町だったという。

還暦になってから、私は時折気の合う仲間と都内の江戸蕎麦屋をハシゴしているが、ますます弾みがつきそうだ。

